



佐潟通信

2017年12月

62号

◆ 佐潟のようすⅠ

10月 9日	1羽
10月20日	1751羽
11月 3日	3476羽
11月24日	4778羽



「佐潟の状況「秋から冬のようす」

今年も多くの冬鳥たちが佐潟に暮ら(ねぐら)等をもとめ集まっています。9月の末に冬鳥のカモ類が飛来し、10月9日には1羽のコハクチョウの着水を初認しました。黒っぽい羽根をした幼鳥の元気な姿も多く目立ち、早朝と夕方には冬鳥を観ようと多くの来館者様で楽しんで頂いています。この冬は佐潟でどんなドラマを見せてくれるでしょうか。

□ 早朝開館について □

佐潟水鳥・湿地センターは、渡り鳥が多く飛来する時期に合わせて11月～2月の間、土日は朝7時に開館します。早い時間であれば、餌場に飛び立つ前のたくさんのハクチョウが観察できます。館内のスコープをご利用ください。皆様のご来館、お待ちしております！



佐潟では、ラムサール条約の精神に基づいた様々な取り組みが行われています。

☆湿地の保全 ◆ワイズユース ◎交流学习・普及啓発

◆ 佐潟のようすⅡ (地域の手で潟を守りつなげよう)

☆ 佐潟の保全活動

1、潟普請 (佐潟クリーンアップ活動)

9月23日、24日、佐潟の保全のため、今年も潟普請が開催されました。長い竹の先に箕(ミ)が付いた鋤簾(ジョレン)を使い、潟の泥を救い上げました。地域の中学生をはじめとする若い力もあり、地域の皆様の参加できれいな佐潟になりました。

2、ヨシ狩り

10月初旬の3日間、毎年恒例の潟周辺のヨシ狩りが地域の方150名ほどで行われました。様々な生き物の生息地として重要であり、暮らしの貴重な資源でもある佐潟の環境を保全するための活動です。集められたヨシは農家の肥料として再利用されます。

「ヨシとは一口メモ」

ヨシは潟や河川の水辺に大群落を形成する代表的な大型抽水植物。4月に出た新芽が水中の窒素やリンを吸収しながら成長し、秋には4m近くなります。窒素やリンを吸収したヨシを刈り取ることで、水中の汚染物質が潟外へ出され、水がきれいになる仕組みです。



潟普請 (ドロ上げ作業)



潟普請 (地元と連携)



ヨシ狩り (ヨシを束ねる様子)

◆ 佐潟のようすⅢ

◇ ワイズユース（賢明な利用）

コイ・フナの稚魚放流が行われました。
佐潟は湧水で水温変動が少ないことから魚や水鳥が快適にすごしやすい環境の潟です。
佐潟では2kg程度の大きなコイ・フナが漁獲されます。10月25日赤塚漁業協同組合主催で組合の皆さんが「早く大きくなって欲しい」願いをこめて放流され、稚魚たちは元気よく泳いで行きました。毎年寒の3月に鯉祭りイベントが開催されてコイ・フナの即売やコイのみそ汁などがふるまわれます。



◆ 佐潟のようすⅣ

さかたん（佐潟自然探検隊）

◎ 稲刈り体験

9月17日、台風18号が接近中、参加者の子供たちが5月に植えた稲の刈り取り作業を行いました。潟端にある田んぼは、土が乾燥していないためドロドロ状態。子供たちは慣れない手つきでカマを使い一株ずつ丁寧に刈り取り、はさぎにかけて天日干しを行いました。初めての作業に掛け声をかけて一生懸命でした。



◆ 佐潟のようすⅤ

近隣地域のイベント

歴史ある中原邸の案内

10月7日、8日の2日間赤塚・中原邸保存会では、1878年（明治11年）明治天皇が北陸巡幸の際、ご昼食をとられた中原邸を一般公開し当時の歴史あとを観覧者に紹介しました。中原家は、幕府への献金名字帯刀を許され新田開発や地元赤塚村の発展に務めたといわれています。中原邸の特徴としては、敷地は4000坪あります。①当時の姿で現在する明治天皇行在所②明治時代のレンガ塀③明治・大正の建物④敷地の半分近い広さを持つ竹林が挙げられます。邸内は北国街道の宿駅の風情を残しています。



【開館時間】9：00～16：30（冬期間11月から2月の土・日は7：00から）
【休館日】月曜日（祝休日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）

編集 佐潟水鳥・湿地センター
〒950-2261 新潟市西区赤塚5404番地1
電話025(264)3050 / FAX 025(264)3051
E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発行 新潟市西区役所地域課文化・スポーツ係
〒950-2097 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号
電話025(264)7193

佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽にご連絡ください。